

花 を 見 る よ う に

君 を 見 る

꽃을 보듯 너를 본다

I SEE YOU LIKE A FLOWER

By Tae Joo Na

Copyright © 2015, Tae Joo Na

All rights reserved

Original Korean edition published by JIHAE

Japanese translation rights arranged with JIHAE through BC Agency.

Japanese edition copyright © 2020 by KANKI PUBLISHING.

はじめに  
作者のことば

この詩集は、私の詩の中でインターネットのブログやツイッターによく掲載される詩ばかりを集めた本です。

そのため、私の本ではあるものの、

読者の意見を十分に聞いてつくった本であるといえるでしょう。

私は、一人の詩人の代表作は詩人自身が決めるのではなく、  
読者が決めるものだと信じている人間です。

それほどに読者の力は大きく、また強いのです。

そういった意味で、この詩集は私に特別な感覚を与えてくれます。

読者が選んだ詩だけを集めた本であるため、

なおさら読者が愛してくれたらよいという思いになります。

末期の惑星であるこの地球で、さらにまた紙を消費して本を出す行為によって、  
木々に対して、太陽に対して申し訳ないという気持ちになります。

しばしのあいだ、みなさんの平安を祈ります。

2015年 初夏

ナ・テジュ

## 目次

はじめに 作者のことば	5
-------------	---

## 1 部

ぼくがきみを	12
その言葉	13
好き	14
愛にこたえる	16
風の吹く日	17
落とし穴	18
あこがれ	19
不器量な人形	21
生きる術	22
日々の祈り	24
一人飛ばして	26
初雪	27
島	28
印象	29
お互いが花	30
お願いだから	31
花たちよ、こんにちは	32
麗しい	33
切なる祈り	35
きみの前で	36
雪の上を書く	37
ただひたすら	38
恍惚の極み	39
花影	40

星 .....	42
きみもそうか .....	43
花・1 .....	44
花・2 .....	46
花・3 .....	47
ひとりで .....	48
虞美人草 .....	49
みじめな告白 .....	51
それでも .....	52
この秋に .....	53
生きていく理由 .....	55
モクレンの落花 .....	56
別れ .....	57
若い春 .....	58
木 .....	59
遠くから .....	60
愛はいつも慣れない .....	61
去った場所 .....	62
遠くで祈る .....	63

## 2 部

ぼくの好きな人 .....	66
口にするとすでに .....	67
旅立たなくてはならないときを .....	68
幸せ .....	70
草花・1 .....	72
便り .....	74

恋しさ	76
美しい人	78
墓碑銘	79
ぼくが愛する季節	80
星たちが代わって	82
春	83
11月	84
草花・2	85
祈り	87
竹やぶの下で	89
冬行き	92
贈り物	93
風に問う	95
今日もきみは遠い	97
離れ来て	99
草花・3	100
お願い	102
惜しまないで	104
この世に来てぼくは	106
花びら	108
3月	109
葉っぱになるために	110
後ろ姿	112
木に話しかける	114
さみしいと思うときほど	115
島にて	116
再び、9月が	118
身のほど知らず	119

懐かしさ .....	120
眠る前の祈り .....	122

### 3 部

まぶしい世界 .....	124
3月に降る雪 .....	125
12月 .....	126
人の多いところでぼくは .....	127
会いたい .....	128
スマイルの花 .....	129
恋愛 .....	131
ぼくの愛は偽物だった .....	133
愛は .....	134
内蔵山の紅葉 .....	135
別れのあと .....	136
詩 .....	137
林檎の木の下 .....	139
思い出 .....	140
地上での数日 .....	141
通話 .....	142
雪 .....	143
霧 .....	144
訪れたことのない街角 .....	145
市場通り .....	146
そんな人として .....	147
詩 .....	148
石ころ .....	150

野道を歩きながら .....	151
真夜中に .....	153
愛する気持ちがあっても .....	154
喜び .....	157
野菊・1 .....	158
かなしみ .....	160
野菊・2 .....	161
スニ .....	162
花を咲かせる木 .....	163
スマレ .....	165
言葉を惜しんで .....	166
山茱萸の花が散った場所 .....	167
今日の約束 .....	168
解説 インターネット詩評 .....	170
おわりに 日本語版に寄せて .....	174

ブックデザイン 三森健太(JUNGLE)

DTP Office SASAI

翻訳協力 リベル

# 1 部



## ぼくがきみを

ぼくがきみを  
どれほど好きなのか  
きみは知らなくてもいい

きみを好きな気持ちは  
ただぼくのものだから  
ぼくの慕う気持ちは  
ぼく一人のものだとしても  
満ちあふれるものだから……

ぼくはもう  
きみなしでも きみを  
好きでいられる

## その言葉

会いたかった  
いつも考えていた

そう言いながら 最後まで  
残したままの言葉は  
愛してる  
きみを愛してる

口の中に残ったその言葉が  
花となり  
香りとなり  
歌となればいい

好き

好きです

好きだというから ぼくも好き



2014. 10. 17

## 愛にこたえる

美しくないものを美しく  
見てあげることが愛だ

よくないものをよいように  
考えてあげるのが愛だ

嫌なことにもよく耐えて  
最初のうちだけでなく

この先もずっと  
そうしてあげるのが愛だ

## 風の吹く日

「きみはぼくに、会いたくもないの？」

雲の上に書こう

「ぼくはきみに、とっても会いたいんだぞ！」

風の上ののっけよう

## 落とし穴

きみのからだからは  
ライラックの花の香りがする 紫色の

きみの唇からは  
デンドロビウムの香りがする 空色の

きみの瞳の奥からは  
ろうそくの灯<sup>ひ</sup>が立ちのぼる 黄金の

だけどそれは罨  
途方もない落とし穴

## あこがれ

行くなと言われても 行きたい道がある  
会うなと言われても 会いたい人がいる  
やるなと言われると やりたくなることがある

それが人生であり あこがれ  
まさにきみだ



2014. WWA

## 不器量な人形

ぶさいくなのが むしろかわいいんだね  
小さな目に ペちゃんこの顔

あれあれ いまにも  
泣きだしそうだね

それでも大好きだよ  
きみが大好き

## 生きる<sup>すべ</sup>術

恋しい日には 絵を描いて  
さみしい日には 音楽を聴いた

それでも余った日には  
きみを想うしかなかった



2014. 6. 24